

高温に伴う農作物等の被害軽減対策について

平成28年7月8日
広島県農林水産局農業技術課

広島県では、7月に入り平年より気温の高い日が続いています。

表1 7月1日～6日の日別平均気温の平均値

	本年 (°C)	平年 (°C)	平年との差 (°C)
広島市	28.2	25.3	+2.9
福山市	27.9	24.6	+3.3
三次市	26.5	23.3	+3.2

また、平成28年7月7日発表の1か月予報では、「向こう1か月の平均気温は、高い確率50%」と発表されています (http://www.jma.go.jp/longfcst/107_00.html)。

最新の気象情報に注意しながら、次の対応策を参考に、被害を最小限に食い止めるよう対策に努めてください。

【共通事項】

○農作業中における熱中症を防ぐため、次の点に注意してください。

- 1 日中気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう。
- 2 こまめな休憩，水分補給を行いましょう。
- 3 屋外では帽子，吸湿速乾性の衣服やファン付きの作業着，屋内では送風機やスポットクーラーなどを活用しましょう。
- 4 単独での作業は避けましょう。
- 5 木陰などの涼しい休憩場所を確保しておきましょう。

作物名	被害拡大防止のための対策
水 稲	<ol style="list-style-type: none">1 防除や穂肥施用は時期を遅れないように注意する。2 カメムシ類の防除時期を逸しないようにする。3 稲こうじ病やもみ枯細菌病等の発生し易い地域では予防的防除に努める。4 高温登熟による白未熟粒の発生抑制対策として，登熟期間中は，極端に水を切らさないよう，間断灌漑に努める。落水時期の基準は出穂後 25～30 日頃であるが，土壌条件，気象条件などに応じて調整する
ハウス栽培全般	施設内の温度上昇を抑制するため，妻面・側面を開放するとともに，作物の光要求性に応じて，遮光資材を使用する。遮光資材は，果実の日焼けや葉やけの防止も有効である。 細霧冷房装置，換気装置等を設置している施設では，これらを有効に利用して適切な温度及び湿度の管理に努める。

野菜	<p>1 乾燥に注意してかん水を実施する。 (1) 果菜類は開花期～果実肥大期に重点かん水する。 (2) 葉根菜類は播種期，移植期及び葉数増加期の重点かん水に努める。 (3) 畝間かん水は気温が下がる夕方から早朝に実施する</p> <p>2 茎菜類は，乾燥によるチップバーンを防止するため，薬剤防除時にカルシウム剤を混用する。</p> <p>3 果菜類は，不良果の摘果，若どりを行い，着果負担の軽減を図るとともに，適切な施肥により樹勢維持に努める。 また，カルシウム欠乏，鉄欠乏，ホウ素欠乏等の生理障害対策として，必要に応じて葉面散布を行う。</p> <p>4 収穫は気温の低い早朝に実施する。</p> <p>5 出荷時の過熟果や生理障害果の混入に注意する。</p>
果樹	<p>1 収穫期を迎える果実については，着色不良を防ぐため，樹冠内の光環境の改善，光反射シートの活用などによって着色を促す。</p> <p>2 着色が遅延することに伴い収穫期が遅れ，過熟とならないよう，適期収穫に努める。</p> <p>3 高温によって果実の日焼けが発生しやすい園地においては，各種資材による遮光等の対策を行う。</p>
花き	<p>1 切り花については，朝・夕の気温の低い時期に採花し，常温で長時間放置しない。また，エチレンによる劣化を防ぐため，前処理剤を使用し品質の維持に努める。</p> <p>2 施設栽培については，作物の光要求性に応じて，遮光資材を使用する。細霧冷房装置，換気装置等を設置している施設では，これらを有効に利用して適切な温度及び湿度の管理に努める</p>
畜産	<p>1 飼料作物 病害虫の発生に注意し，多発の際は早期刈取等実施する。</p> <p>2 家畜 気温の上昇と共に採食量の減少，乳牛では泌乳量の減少，乳成分の低下，肥育牛では増体量の低下が起こるので以下の対策を行う。 (1) 直射日光の遮断(寒冷紗)，屋根散水，白色塗装(屋根)等を行う。 (2) 換気扇，送風機により家畜への送風や畜舎の換気に努める。 (3) 新鮮な飲水を十分給与する。 (4) 飼槽や給水器の清掃を行う。</p>

問合せ先

西部農業技術指導所	東広島市八本松町原 6869	電話	082-420-9661
東部農業技術指導所	福山市三吉町1丁目1-1	電話	084-921-1311
北部農業技術指導所	三次市十日市東4丁目6-1	電話	0824-63-5181
県庁農業技術課	広島市中区基町10-52	電話	082-513-3564